情報公開文書

2023 年 1 月 18 日作成

Ver.1.2

下顎水平埋伏智歯抜歯時の術後知覚鈍麻と下顎管との関連性に関する多機関共同後ろ向き観察研究

1、研究の目的と意義

下顎水平埋伏智歯（横を向いて埋まっている親知らず）の抜歯は口腔外科手術において頻度の高いものの一つです。抜歯の術後合併症の１つである下唇の知覚鈍麻は、発症率は低いですが症状が中長期的に継続することが多く、患者さんの口腔機能に影響を与える可能性のある合併症であり、留意が必要です。しかしながら、下顎骨内にある下顎管（下歯槽神経血管束が走行）と智歯歯根は解剖学的に接触あるいは近接することがほとんどであり、現時点ではその危険性を十分に説明した上で抜歯を行っています。

今回は、下顎水平埋伏智歯における智歯歯根と下顎管との関連性（変形度、接触部位）、またそれに伴う知覚鈍麻発症との関連性について検討を行う予定です。本研究より危険性の高い解剖学的状態（智歯歯根と下顎管との関連）がより明らかになり、患者さんへの説明およびその予防についてさらなる具体的な対策を立てることができるため、今後の口腔外科診療に貢献できると考えます。

2、対象となる患者さん

2018 年４月１日から 2021 年３月 31 日の間に研究参加施設（長崎大学病院、重工記念長崎病院）で下顎水平埋伏智歯を抜歯されている患者さん。

3、研究の方法

多機関で症例を集めて、術前に撮影した CT 画像にて歯根圧迫による下顎管の変形度と位置を分類し、知覚鈍麻の発現、症状経過の傾向について検討する予定です。

4、研究に用いる情報

本研究は診療録より下顎水平埋伏智歯抜歯時の患者情報、術前情報および CT 所見に関する情報を集めて、検討を行う研究です。

本研究で利用する情報について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

5、研究期間

研究機関長の許可日～2023 年１２月 31 日

6、外部への情報の提供

研究実施機関で収集された患者さんの情報は、個人を特定できない状態にして症例報告書としてまとめ、研究代表機関である長崎大学病院へ郵送にて集められます。

7、研究実施体制

本研究は多機関共同研究です。

長崎大学病院を中心に県内の２機関で実施します。

詳しい研究機関についてお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

≪研究代表者≫

長崎大学病院　口腔外科　鳴瀬　智史

≪共同研究機関/研究責任者≫

重工記念長崎病院　歯科口腔外科　六反田　賢

8.お問い合わせ先

長崎大学病院　口腔外科　鳴瀬　智史

〒852－8501　長崎市坂本１丁目７番１号

電話：095（819）7698　　FAX　095（819）7700

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療安全課　095（819）7616

受付時間　　：月～金　　9：00～17：00（祝・祭日を除く）